

会 議 録

1 会議名

令和3年度 第4回高田区地域協議会分科会（第1分科会）

2 議題

（1）協議（公開・非公開の別）

①高田区の活性化について（公開）

3 開催日時

令和3年12月6日（月）午後6時30分から午後7時25分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：浦壁澄子、小川善司、小嶋清介、高野恒男（副会長）、富田晃、
本城文夫（会長）、松倉康雄、村田秀夫（欠席：宮崎陽）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 五十嵐主任

8 発言の内容（主な発言の要旨）

—次第3協議（1）高田区の活性化について—

【富田座長】

私の方で前回の分科会後に小川副座長といろいろ相談してまとめた文書（別紙1、別紙2）を事務局を通じて皆さんに送った。

（複数の委員から届いていないとの発言があったため、文書を配布する）

今配布した別紙1には「第4回分科会で決めたいこと」と最後に書いてある。かいつまんで話す。第3回分科会のまとめ及び今後の進め方について11月2日に小川副座長と打ち合わせをし、以下のように決めたので了解くださいというもの。第1

分科会のテーマの決定ということで、高田区の活性化に向けて「若者の地域参画」に決定。決定の根拠は、本テーマに委員8人中6人が賛成した。また、他の2つのテーマ、青田川とスポーツ関係だが、これについても若者が今後主体となって活動するものであることから、「若者の地域参画」に決めた。今後の進め方ということで、まず、若者と意見交換を行い現状認識をするということを小川副会長と話して表記した。

意見交換だと堅苦しいので、まず、若者でやっている活動を聞く。我々、地域協議会のメンバーもなかなか高田区の若者がどんなことをやっているかという実態を知らない。知っている人は知っているかもしれないが。そういうことをまずは聞いて考える。

来年7月までにまとめなくてはいけないというちょっと堅苦しい感じがあったが、反省している。まずは若者から実態を聞こうというもの。そして次のステップを考えようというもの。そして、メンバーへのお願いということで、1つは、若者集団の紹介。皆さんがいろいろ絡んでいる団体があると思う。その若者を紹介してもらい、その活動内容を聞く。心当たりの若者集団を紹介してほしい。分野はこだわらない。いろいろな分野の方がいると思う。

我々が知っているところでは、町家とかで活動しているグループがある。皆さんから自由に情報を出してほしい。また、意見交換する内容についてあらかじめ考えてきてほしいということで、意見交換して、ではこれとこれをとるとお互い話しにくくなるので、まずは若者から15から20分くらいで自分達の活動について説明してもらい、その後質問とか、どんなことに困っているか等、いろいろフリートークンキングができればと考えている。

今説明した中で質問や意見等を自由に話してほしい。

結構インターネットで若者がやっているのがある。第三期の高田区地域協議会委員で上越アクティブスポーツ協会のA氏がいる。インターネットで見ると動画も出ている。村田委員ご存じか。

【村田委員】

施設にボルダリングがある。いい施設だ。私もボルダリングに行った。小さい子ども達もいた。

【富田座長】

結構そういう若い人もこの地域協議会に参加してやっている。若者集団と言われてもなかなか出てこないと思うが、浦壁委員から順番に発言を求める。

【浦壁委員】

この間話したように、関わりのあるところからやっていくとやりやすく、進めやすいと思う。

【小川副座長】

大勢おられる中で2人名前を挙げる。1人は四ノ辻に「兎に角」という喫茶店があり、そこをシェアハウスにした建築士のB氏。もう一人は上越教育大学教授の妻のC氏。このあたりは高田のまちをいろいろ発信されてるので、参考になると思う。

【小嶋委員】

最近コロナ禍で付き合いがない。

【本城会長】

これといってなかなかいない。今まちづくりで活動してる団体の中から、NPOみたいな関係の方がいいのかなと思う。

【高野副会長】

小川委員が言ったB氏達と一緒に活動しているD氏という方もいいと思う。それから世界館をやっているE氏もいいと思う。この2人を推薦したいと思う。あと、いろいろあちこちで小さなお店というか、女性がいろいろ出している。そういう人がわかれば、その人達もお呼びすればいいと思うが、ちょっと今ここで具体的はことは分からない。

【松倉委員】

私の知ってる範囲では小川委員が言われたようにB氏で、「兎に角」というところでやっている。それと高野副会長が言われたD氏。兩人とも Kinaiya プロジェクトのメンバーである。E氏はちょっと方向性が違う。

【高野副会長】

ちょっと話を聞くにはいいが、あの人達はプロというか、いろいろやっているの
で、そこまでメジャーでない方の方がいいかもしれない。

【村田委員】

よく理解できてないところがあるが、高田区地域協議会として、若者の代表者から来ていただくという形態、じかにイメージを聞くというやり方でいいのかはわからない。地域活動支援事業など、市の政策があつて、水害対策もそうだが、それに対してそういうやり方が本当にそれでいいのかとか、諮問を受けたときに吟味したりしているが、やはり市の方針として高田区の活性化に関するビジョンを持っていると思う。或いは不十分なビジョンであれば、それに対して何か問題提起をしたり、新しいポイントを何か提起するということはあると思う。やはり市政と同時に活性化を進めていくというプロセスがどういうプロセスなのかという問題意識を今持っている。私達がじかに若者代表と思われる方をピックアップして呼んで、どうのこうの言ってもそれは大きなうねりや力にならない。市民、市政があり、私達はそれのつなぎ役というか、活性化役という役割を果たすのが仕事なのではないかと思っている。

【高野副会長】

では具体的にどういうふうにすればということを知りたい。

【村田委員】

行政でどういうイメージ、プランを持っているのかをまず聞く。現状をどう捉えているのかを聞かないと。

【小川副会長】

自身の意見としてはどんな意見をもっているのか。

【村田委員】

それは今まで既にここで発言した内容となる。どんな意見をもっているかは、既にこの分科会の中で発言させてもらったことがそうである。

【小川副会長】

もう一度聞きたい。

【村田委員】

発言しているので、そのとおりである。

【小川副会長】

分からない。

【高野副会長】

市がどうのこうのという話が今あったが、これはあくまでも市民自体の活動で、市とは関係なくというか、特別、市の方向がどうのこうのとか、今ここではそういう話はしていない。

【富田座長】

一番最初に正副会長がいろいろ話し合っ、いろいろな意見が出た中でポイントを絞って、地域活動支援事業の活性化、雁木、空き家、災害の対応等が載った資料があった。そして、こういうことをやるということで皆さんが賛同した。全体会議で皆さんこれでいこうということでオーソライズされている。この資料は皆さん持っていると思う。これがベースである。この資料を読むと、雁木、空き家、高齢者世代に関する現状や問題を把握し、課題解決に向けた取組を話し合うと書いてある。これも同じことで、高田区を活性化するために若者が今どういうふうに活動しているか、そういう現状を把握して、課題解決、活動するために今困っていることはないか、どんなことを市に提案したら皆さんがやりやすくなるか等を聞く。先ほど高野副会長が、今若い女性がと言っていた。私も注目しており、朝市を活性化している。この前、小嶋委員の催しにもその女性が来ていた。1人でワゴン車を持ってきて、そちらの事務局に私こういうことをやっているが参加できますかと伺い、事務局長は「いいですよ」と応えた。活動しようとしている。事務局長は「こういうのが来ると、もっといろいろ活性化するんだけどね」というようなことを言っていた。明日は7日なので多分朝市にきていると思う。そこであなたが困っていることは何か、もっと朝市を活性化させるためにどういったことをやったらいいかとか、いろいろ聞けると思う。そういうことを全体会議で皆さん了解している。もうオーソライズされている。もう大分進んでいる。

【村田委員】

よくわからない。

【浦壁委員】

村田委員が言うことと富田座長が言うことは、全然視点が違うように思う。やはり村田委員の気持ちもわかる。なぜかという、ただ若い人を呼び込めば何でも活性化に繋がるというのは大きな間違いだと思うため。「具体的に何をやるか」私はそれだと思う。大きく活性化するために何か一つ。もうあれもこれもと、そういうこと

ではなく、ある程度はできるだけ大勢の若い方たちを導入するには大体何をやればいいのかという、具体的なやるべきことがない以上、ただ若い人若い人と言っても、個人名を挙げてもらってもやはりリーダーになって動いてくれる人がいないといけない。先ほどNPO法人とかいろいろ話していたが、NPOだって皆いろいろな特色がある。全くとらえ所がない。だから村田委員がちょっと疑問視している気持ちがある。何が何だかわからないというふうに。今までの経緯はそれはそれで言われたとおりだが、若い人達を呼び込めばいいと言っても、どういう項目で活性化につなげるか、それがある程度ははっきりと決まり、対象がある程度理解できるようになれば、若い人達からそこに呼び込む、声をかけて動いてもらう。リーダーになる人は個人名を1人ずつ挙げて難しいと思う。やはりリーダーになる方が何人か核になってもらわないと進まないと思う。そこのところはいかがか。何かははっきりと具体的にこういうことが活性化に繋がるという発想というか、具体的にイメージできるものがないと。ただただ、いろいろな若い人の力、若い人さえ参加すれば何か活性化に繋がるなんて思っていたら、若い人だってどういう分野の若い方をお願いすればいいか全然わからない。だからもう一度的を絞ってほしいと思う。

【小川副座長】

実際に今名前が挙げた方は単なる若者ではなく、既にリーダーである。そういう方をお呼びして意見を聞くということは、その方の夢や考え方、この町にどういう魅力があって何を誇りに思って何をそこでやっていくのかについて、ちゃんとした思想を持っておられる。だから、単なる若者をお呼びするのではなく、そういう方の考え方を皆でちょっと聞いてみようではないかということで、お一人お一人の名前を挙げている。

【富田座長】

小川副座長、高野副会長、本城会長あたりはいろいろな団体と活動しており熟知している。B氏はこういう「キナイヤ白書」を発行し、今年の3月に高田小町で活動を発表したことが載っている。今後はこういうふうにしたいたか。ここはグループで、B氏がリーダー。そういう生の話を聞く。こういう繋ぎができた、こういうところが困った、こういうところがもっとやらないといけない等、そういうことを聞けばイメージができる。これを今度は自主的審議事項としていく。どのようにこれを地域協議

会が出すか。あと「地域を元気にするために必要な提案事業」もある。そこに乗せていければ。自主的審議事項になると全体会でやらないといけない。自主的審議事項になる前にまとめて、全体会で話しをする。自主的審議事項になったら、ではどういうふうに提案するかということを考える。

【高野副会長】

若い人といっても、誰にどうすればということになるわけだが、その中で実際に今活動してる方、まずその人達の話聞くのが最初ではないかと思う。その方が非常にいいと思う。活動している人はいませんかという話だ。

【富田座長】

この前、11月24日にNHKの午後6時10分から地方版があり、このKinaiyaプロジェクトのB氏がテレビに出て、彼らの活動を5分くらい説明している。

【小川副座長】

単なる言われたことをやる若者ではなく、一つのことを中心になって引っ張れる人達である。市もそれと一緒に足並みを揃えて施策を立ててきている。市だけでやっているのではなく、やはり地元の人が動いてお互いに協力しながら進んでいるので、そういう話を聞いてみればいいと思う。

【富田座長】

いろいろな話を聞けばいろいろ情報を得られると思う。市職員も入れてうまくやっている。協働ということがある。最近その協働でやるというのが非常に流行っている。まさに市と民間と一緒にやっているチームである。これも一つということで、他にそういう集団があれば教えてほしい。Kinaiyaプロジェクトは空き家とか町家のリフォームではなく、リノベーションをやっている。あと冒頭に言ったが、A氏という方がアクティブスポーツセンターをつくりたいということで今いろいろやっている。クラウドファンディングでお金を集めてやっている。だからいろいろ聞けると思う。

【松倉委員】

やはり若い人の何か意見を聞いて、切り口を探さないことには。

【高野副会長】

だからまず取っかかりというか、そうしないと全然進まないと思う。何か他に、いや、もっとこういうものがあるというのであれば、出していただければいい。

【富田座長】

分科会で何をやるかというのは皆さん十分ご存じだと思う。そこまで課題が明確になっている。

【浦壁委員】

高田区の活性化のための活動の案として10月4日に出された時系列の進め方の表によると、(2)②のところに改善策の提案という項目がある。これは何の改善策なのか。

【富田座長】

イメージである。これは地域活動支援事業の活性化ということで作ったが、もう却下されたので忘れてほしい。これは全体会議で越権行為とか平等の観点とかの意見がでて駄目になった。

【浦壁委員】

いずれにせよ3月までに分科会のまとめを結論づけないといけない。

【富田座長】

それは7月までである。

【浦壁委員】

小川副座長の意見もすごくいいし、そうやって聞いて進めたり、そこからまたいろいろなことを考えて皆で協議していくと、もう何も極めようがない。時間的にも。範囲が広いというか、何かしないと分科会でまとめ上げるのはちょっと難しい。

【富田座長】

それは座長、副座長の責任でやる。我々、企業でいろいろやっているし、小川副座長も皆さんも時間軸でやっている。そういう人達が集まっている。これは私の個人の考え方だが、現状を聞いて、彼らがこういう活動をやってきたが、こういう困った点があった、こうなると今後新しい若者が事業を起こそうとするときにこういう問題があるのでこうやって欲しい等、それがでてきたらそれを自主的審議事項で市に提案したらよいのではないかと思う。あとは市がどういう回答をするかだが、そこまで一応7月。その後またいろいろあれば、また次の展開となる。

【高野副会長】

今名前を挙げてほしいということで進めてきたが、名前が出た人から、他にどうい

う人を呼んだらいいかということも聞くことができたらいいいのではないか。

【富田座長】

そのとおり。第1回目はB氏にプレゼンをお願いし、いろいろ聞いて、B氏に高田
区にどんな若者がいますかと聞く。個人的には小嶋委員が陀羅尼紅葉まつりをやっ
たときに来た女性が印象に残っている。最近いろいろ顔を出していろいろやってい
るということで、朝市の活性化等にも繋がる。

【高野副会長】

そこから取っ掛からないと話がまとまらない。

【富田座長】

だから第1回目はB氏にお願いすることでどうか。場所はどうか。

【小川副座長】

ここでもいい。

【富田座長】

スライドやプロジェクターなど使うだろう。ではB氏から来てもらって説明を聞
いて、それから意見交換まではいかないと思うが、どんな試練があったのか、苦労話
とか聞こうと思う。「兎に角」の2階に事務所があり、1階はコーヒー店。

【高野副会長】

この進め方について皆に確認されたらどうか。

【富田座長】

今私が説明したように第1回目はB氏から来てもらい、彼の今までの活動を説明
していただき、質疑をし、他の団体を知りませんかと聞く。我々としては若者の地域
参画を支援したいので、そのためにはどういう仕組みをつくったらいいか等、どうい
うことをしなければいけないかというのを議論しようと思う。

【小嶋委員】

彼を知っているが、忙しくてここまでこれないのではないか。こちらから高田小町
に出向くのでもよい。周りに世界館もある。先方の都合に合わせる。

【富田座長】

正副座長で調整する。一つ気になったのは、こういうヒアリングというか意見交換
をやるときは委員全員で聞くという文書があったと思う。

【高野副会長】

いや、それはちょっと。第2分科会は第2分科会でやっているわけで。

【松倉委員】

今までの経緯がわからない委員にとって、突然来いと言われても。

【高野副会長】

最終的には結論を全体会で発表すればよい。

【富田座長】

承知した。

【高野副会長】

今回が第1回とするならば、高田区は広いので北の次は南とか何か所かでやるのがいいのかなと思う。一つやって終わりということではないと思う。

【富田座長】

私は次の方は全然方向性は違うが、スポーツ関係でA氏、上越アクティブスポーツ協会の代表をしている。第3期委員なので高野さんご存じか。

【高野副会長】

知っているが、この方は地域協議会の委員として出ていたわけで、何も自分の活動がどうのこうのということではない。たまたまそういう活動をしているということ。

【富田座長】

次は彼にあたろうと思っている。NPOサポートセンター事務局長の近藤さんに会ってどんな人がいるか聞いている。今日出た名前、B氏、C氏、D氏、E氏、朝市とかいろいろ落花生を売っている女性。そんなに聞く時間もないので、まずB氏、A氏あたりでと思う。

他に何かあるかを伺い、ないことを確認。

閉会を宣言。

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL: 025-522-8831 (直通)

E-mail: nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。